

甲斐市立双葉西小学校 学校関係者評価書

令和6年2月27日（火）

甲斐市立双葉西小学校 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：令和6年2月9日（金）

会 場：甲斐市立双葉西小学校家庭科室

参加者：（学校関係者評価委員）

小田切千尋・石原 茂雄・花田 弘樹・箭本 昌人・山田 幸雄
斉藤さや香・飯室 智陽・日永 龍彦・中島 雅子・前村はぎ映
阿部 智子・金丸 徹・佐藤 耕太
（学校側）

窪田 正幸（校長）・小田切真喜（教頭）・三井 啓郎（教務主任）
山本真由美（CSコーディネーター） ・秋本 啓子（事務）

I 学校側から提案された内容

〈教職員自己評価書について〉

- 1 達成状況について
- 2 改善策について
- 3 まとめ

II 協議された主な内容

1 全体の概要について

（1）教職員自己評価について

- ほとんどの設問で肯定的評価が95%以上であり、昨年度に引き続き、教職員自己評価が良好であること。

（2）小学生アンケートについて

- 「学校は楽しいですか」の肯定意見が約92.3%となり、多くの児童が学校生活に満足している状況であること。

（3）保護者アンケートについて

- 「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の肯定意見が約93%以上であり、好意的な評価であること。

2 学校教育目標・学校経営について

- 責任の重い仕事については複数人で担当させたり、適材適所に人材を配置したりするなどし、より組織的に職務にあたることができるよう校務分掌の割り振りをすること。

- できるだけ仕事量に偏りのないようにするとともに、ベテラン教師と若手教師をバランスよく配置してO J Tを通しての教職員の資質・能力の向上を図ること。

3 学校運営について

- ① 校務支援システムについては、まだまだその利点を十分に活用できていないとは言えないが、学校スケジュールや掲示板、旅行命令簿等の使用頻度は着実に増えてきていること。
- ② 現在全教職員で毎月2回以上は「定時退勤日」を設け、その日は定時で退勤する取り組みを行ってきていること。また、学校行事の見直しや教材教具の引き継ぎ、適切な校務分掌の組織等、管理職を中心とした多忙化解消への取り組みを推進していくこと。
- ③ 校内研究会等を利用した特別支援教育に関する研修を行うなど、全教職員の資質・能力の向上を図っていくこと。また、校内支援委員会を定期的に関き、全教職員で共通理解を持ちながら特別な支援を要する児童の指導にあたり、さらに、支援員等を効果的に配置して十分な体制で特別支援教育が行えるようにしていくこと。

4 学習指導について

- ① 全員の教職員が自信を持ってI C Tの活用を進めていくためには、組織的な取組が必要であること。
- ② 本校の強みである、教職員同士の連携や協働体制を今後も強く押し進め、教職員集団がチームとなることで、全教職員が自信を持って教育活動が取り組めるよう校長を中心とした組織作りを行っていくこと。

5 生徒指導について

- いじめ・不登校等については、教職員や保護者等による早期発見と早期対応が何より重要であること。また、いじめ・不登校等に対する組織的な対応ができるよう、生徒指導主任を中心とした校内委員会や職員会議等を通して、全教職員の共通理解を図り、全教職員で統一された意識を持ちながら児童の支援や指導にあたっていくこと。

6 地域との連携について

- ① 概ね良好な結果が示されている現状があるので、引き続き学校運営協議会を中心にしながら、地域のみなさんとともに学ぶことができる、社会に開かれた学校を目指しながら学校運営を行っていくこと。
- ② 地域の講師の方とC Sコーディネーターや教職員との連絡・調整をさらに密にとり、それぞれが共通理解を持つ中で学習計画を立て、効率的で効果的な学習内容を構築していくこと。

- ③ 社会の状況や学校行事等を鑑みながら，保護者や教職員の負担をできるだけ削減し，今後も参加しやすいP T A活動を行うよう検討していくこと。
- ④ 校内研究会等を活用し，引き続きより有効的な「地域の教育力を生かす指導」について組織的に研究を進め，より目的意識を持った指導が行われるように教職員の資質・能力の向上を図ること。

7 学校の特色について

- 学校の特色について，校長の指導の下，全教職員で共通認識をとりながら進めてきていること。また，来年度以降も全教職員一丸となって取り組んでいくこと。

8 創甲斐教育について

- 子供たちに「確かな学力」を身につけさせ、「生きる力」を育むために，教職員が個々の育成指標に合った適切な目標設定を行った上で，校内研究会やさまざまな研修を行うのと同時に，O J Tを生かしながら全教職員の資質・能力の向上を図っていくこと。

〈学校関係者評価書〉

1 全体評価

- 「学校が楽しい」「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の肯定意見が9割を超えている。このことは先生方が子供たちにとっての楽しい学校づくりに取り組んでいる成果である。
- 肯定的評価の中でも、「B」評価の割合が増えているが、統計的には誤差の範囲内である。全体的に非常によい結果となっているのではないか。
- 否定的な評価をつけた教職員に対しては、個別の対応をしていく必要がある。

2 観点ごとの評価結果

I 学校教育目標・学校経営について

- 全教職員が学校教育目標を意識した学校経営がなされており、一丸となって取り組んできている成果が表れている。

II 学校運営について

- 校務支援システムについて活用の取組を進めていってほしい。これまでの活用の仕方を分析し、有効に活用できていないところがどんなところかを把握しながら取り組むことで、効果が上がるであろう。

III 学習指導について

- 授業でのICTの利活用については、教職員の技術習得も必要である。
- 先生方は本当によく頑張っていると感じる。これからも自信を持ちながら取り組んでいってほしいと思う。

IV 生徒指導について

- 課題にも示されているが、いじめ・不登校等の早期発見・早期対応について、全職員で共通認識を持ち、徹底してもらいたい。

V 地域との連携について

- CS地域コーディネーターの負担を軽減させていくために、地域の方に事務作業ボランティアをお願いし、有効的に活用していけるようにしてもらいたい。
- 学校応援団による活動は学年によって異なってくる。また、毎年同じ形での活動となると、教員側の授業者としての意識が薄くなってしまいう弊害もある。学校応援団の方々からは経験による知識や技術を教えていただくこととなるため、教科書をもとに指導する教員との差が出てくるのではないか。

VI 学校の特色について

- 引き続き，継続的な指導をしていただきたい。

VII 創甲斐教育について

- 今後も意欲的に取り組んでもらいたい。

3 今後の課題として確認されたこと

- 機能的な校務分掌の働き
- 特別支援体制の機能的な活用
- ICTを効果的に活用した授業づくり
- いじめ・不登校等の早期発見・早期対応
- さらなる地域の教育力を生かす授業

※特記事項

- 特になし

記載責任者：甲斐市立双葉西小学校 学校関係者評価委員 小田切千尋 印